



ウェブ版はこちら

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/navi/>



私たちがつくる 持続可能な世界



2030年 —

社会の主役となっていく私たちのミッション

貧困、紛争、感染症、気候変動、資源の枯渇…

人類は、これまでになかったような数多くの課題に直面している。このままでは、人類が安定してこの世界で暮らし続けることができなくなってしまうとされている。そんな危機感から、世界中の様々な立場の人々が話し合い、課題を整理し、解決に向けて2030年までに達成すべき具体的な目標を立てた。それが「**持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)**」である。

SDGsは、「持続可能な世界」を実現するための、いわばナビのようなものである。人類はいま、そのナビが示す方向に進めているだろうか？そして、きみ自身はどうだろうか？

様々な社会の課題とSDGsとのつながりを知り、「持続可能な世界を築くためには、何をしたらいいのか。また、将来自分はどのように目標達成に貢献できるだろうか。」それを考えることが、2030年以降の世界で主役となって活躍していくきみたちに課せられたミッションである。

さあ、持続可能な世界を創るために、
一歩を踏み出そう！

SDGs
とは？

- ◆2015年に国連で採択された「2030年までの達成をめざす17の目標」
- ◆国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めたすべての人が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められている
- ◆キーワードは「誰ひとり取り残さない」

SDGsの
達成度合いは？

国連は「SDGs報告2024」で、SDGsのターゲットのうち、達成できそうなものは約17%*1と発表。

順調 17%

不十分 48%

停滞・後退 35%



年 組



unicef



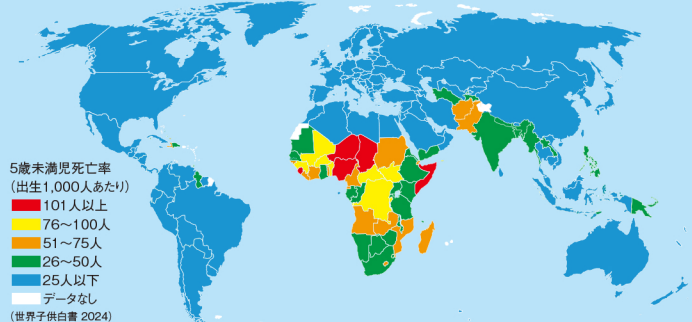
外務省



生まれる環境は選ぶことができない。世界にはどのような不平等があるのか見てみよう。

5歳になる前に亡くなる子どもが多い国 赤色 黄色 はどのような国でしょう？

年間480万人の子どもたちが5歳の誕生日を迎える前に亡くなっています。^{※2}約7秒に1人、世界のどこかで幼い命が失われているのです。



約7,100万人の小学校就学年齢の子どもたちが、学校に通えずにいます。^{※3}「女の子だから」「貧しいから」「障がいがあるから」、理由は様々です。



極度の貧困状態のもとで暮らしている人は世界に推定6億9,200万人。うち半分以上が子ども(52.4%)です。^{※4}世界の子ども6人に1人が極度の貧困状態で暮らしています。

[※]国際基準で定められた1日2.15米ドル未満の生活



安全な水を必要な時に家で利用できない人は22億人。このうち1億1,500万人は池や河川、用水路などの水をそのまま使っています。^{※5}



排泄物を衛生的に処理できるトイレが家がない人は34億人。このうち4億1,900万人が、草むらなど屋外で用を足しています。^{※6}



世界の赤ちゃんとお母さんを守る日本発祥の「母子健康手帳」

日本は、乳児死亡率が世界で一番低い国の一つです。一役買っているのが「母子健康手帳」。妊娠中及び出産時の母子の状態、子どもの成長・健康状況を、継続的に記録するための冊子です。予防接種や健診、成長のようすが一目でわかり、問題があったときにも早く発見し、対処することができます。

日本は政府開発援助(ODA)を活用して20年ほど前から、アジア・アフリカ諸国で母子健康手帳を広める国際協力を進めています。お母さんや家族の保健の知識を向上させ、妊産婦と乳幼児の健康状態を改善していく。母子健康手帳にはそんな知恵が詰まっています。

生まれる環境は誰も選ぶことができません。自分ではどうしようもないことで、将来の制約を受ける、そんな不平等を克服するための、ひとつの取り組みです。

開発途上国の多くのお母さんと赤ちゃんが直面している問題にかかわるデータ

<産前・産後のケアの不足> 妊娠・出産中の合併症が原因で死亡する女性は、年間約28万7,000人(1日808人)もいます。^{※7}

<栄養不良> 世界の5歳未満児の22.3%(1億4,810万人)が日常的に栄養を十分に取れず、发育障害の状態にあります。^{※8} 乳幼児期の栄養の不足は、身体だけでなく知能の発達も遅らせ、その影響は生涯にわたるものとなります。



JICA(国際協力機構)が支援するパレスチナの母子健康手帳

格差や貧困は、途上国だけでなく、日本も含めた先進国の中でも問題になっています。

性別を理由に機会の不平等が起こることがあります。例えば、教育を受けられる女子の割合が男子よりも低い国も多くあります。また、国会議員に占める女性の割合は世界的に低く(日本の衆議院における女性議員比率は15.7%で調査対象186カ国中164位^{※9})、男女が意思決定の過程に平等に参画し、多様な意思が政治や政策に反映されていくようにすることはとても重要です。日本政府も「2030年代には、誰もが性別を意識することなく活躍でき、指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となることを目指す」との目標を掲げ、取り組みを進めています。



先進国の子どもの貧困の状況を比較したユニセフの調査によれば、日本の子どもの貧困率は39カ国中低い方から11番目でした。^{※10} 格差については41カ国中大きい方から10番目という調査結果もあります。^{※11}

先進国の貧困を表すによく使われる「相対的貧困」と、開発途上国の貧困を表すによく使われる「絶対的貧困」には、どのような違いがあるかな？



企業の力で社会の課題を解決

医療、安全な水や衛生、十分な栄養など、世界には「生きていく上で最低限必要なものを手に入れられるかどうか」にさえ不平等があります。そうした不平等を、企業が持っている技術力や専門性を生かして克服しようとする取り組みが広がっています。

例えば、貧しい人でもまかなえる価格で設置できるトイレや安価な医薬品の開発と普及、マラリア予防の蚊帳の開発、貧しい地域での浄水・給水事業、乳幼児の栄養改善食の開発など、日本企業も様々な社会課題の解決に取り組んでいます。

携帯電話やドローン、衛星技術など、企業が開発する新しい技術も、こうした課題解決にますます貢献すると期待されています。



マラウイで、HIV/エイズ検査の検体を都市の病院に届けるドローン。ユニセフと企業が協力している。

^{※1} The Sustainable Development Goals Report 2024, United Nations, Department of Economic and Social Affairs ^{※2} Levels and trends in child mortality 2024, UNICEF ^{※3} Global education monitoring report, 2024/5, Leadership in education: lead for learning: UNESCO ^{※4} The Poverty, Prosperity, and Planet Report 2024; Overview, World Bank ^{※5, 6} Progress on household drinking water, sanitation and hygiene (WASH) 2000-2022: Special focus on gender, WHO/UNICEF JUMP ^{※7} Trends in maternal mortality 2000 to 2020: estimates by WHO, UNICEF, UNFPA, World Bank Group and UNDESA/Population Division, Geneva: World Health Organization; 2023 ^{※8} Levels and trends in child malnutrition: UNICEF / WHO / World Bank Group Joint Child Malnutrition Estimates: Key findings of the 2023 edition ^{※9} 「女性の政治参画マップ2024」(令和6年12月作成)、内閣府男女共同参画局 ^{※10} ユニセフ「レポートカード18 豊かさの中の子ども」, 2023 ^{※11} ユニセフ「レポートカード14 未来を築く:先進国の子どもたちと持続可能な開発目標(SDGs)」, 2017

02 暴力や差別をなくそう！

目標



SDGsは、平和で、暴力や差別のない世界を目指しています。

現在の世界には、どのような問題があるでしょう？

8 8. 経済的不平等を減らす

児童労働

1億6,000万人の子どもが働かされています。^{※1}新型コロナウイルスの影響下で、2020年には児童労働に従事する子どもの人数は過去20年で初めて増加に転じました。



© UNICEF/UN067752/Sokhin

5 5. 性別平等を推進する

児童婚

18歳未満で結婚した女性は、6億4,000万人います。^{※2}妊娠・出産時のリスクが高まるほか、教育機会が奪われることなどにより将来や次世代にも影響が及びます。新型コロナウイルスや気候変動、紛争などによる生活の困窮が児童婚増加の要因となっていることが指摘されています。^{※3}

16 16. 平和と正義を促進する

私たちの日常にある子どもへの暴力

虐待 世界では2～4歳児の約4分の3が、家庭内で体罰や精神的虐待を受けているとの調査結果があります。^{※4}日本でも、子どもが虐待や体罰を受ける事件が起きています。

ネットの危険 インターネットは差別的な書き込みやいじめの場にもなります。日本では、明らかになっているだけでも、年間1,500人を超える子どもがSNSを通じて性犯罪等に巻き込まれています。^{※5}

いじめ 13～15歳の子どもの約3人に1人がいじめを経験しているとの調査結果があります。^{※6}

8 8. 経済的不平等を減らす

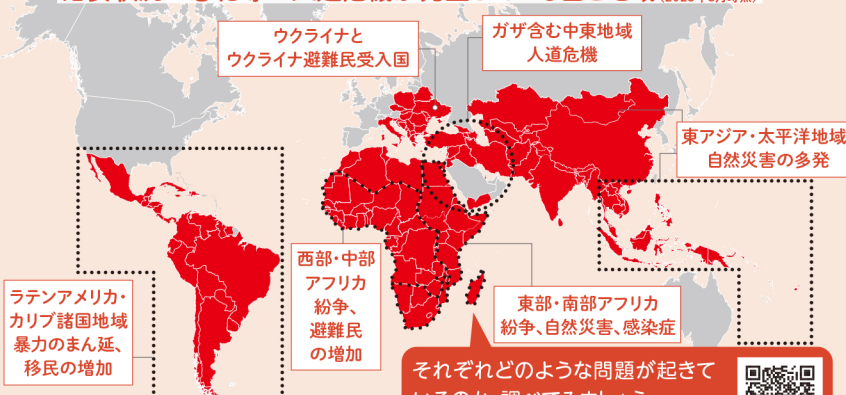
世界の人道危機と巻き込まれる子どもたち

暮らし 子どもたちは恐怖にさらされ、健康に育つ機会や教育の機会を奪われています。紛争地域に暮らす子どもの数は約4億7,300万人にのぼります。^{※7}

巻き込まれる子ども 戦闘員、料理係、スパイ役、メッセンジャーなどとして武力紛争に巻き込まれている子どもは、世界で数万人いると推定されています。

移動する子ども(移民・難民) 2023年末時点で故郷を離れ移動せざるを得なくなった人々は推定1億1,730万人。そのうち4,720万人が子どもです。子どもだけで国境を越える例もあり、人身売買や暴力、遭難など多くの危険がともないます。^{※8}

紛争や自然災害、難民・避難民の発生、治安状況の悪化等の人道危機が発生している国と地域 (2025年3月時点)



出典: Humanitarian Action for Children 2025 Overviewをもとに日本ユニセフ協会が作成
(赤: 人道危機等のためにユニセフが資金支援を要請している国と地域)

それぞれどのような問題が起きているのか、調べてみましょう。
詳しい説明を読んでみよう! >>



10 10. 人や国の不平等をなくす

様々な差別

世界には、性別、障がい、人種、民族、社会的立場、宗教など様々な理由で差別される人々がいます。差別は暴力にもつながりやすく、差別をなくすため、条約や法律などが作られ、取り組みが進められています。例えば児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)は、いかなる理由でも子どもは差別されてはならないことを定めています。

日本でも、差別をなくすために…外国人への差別とも受け取れる応援が問題となったサッカーチームは、「差別撲滅」を宣言し、チームとサポーターが協力して取り組んでいます。

イノベーションで子どもの課題を解決

世界では5歳未満の約3割が、出生登録証を持っていません。^{※9}出生登録がないと、保健サービスや教育が受けられないことや、児童労働につながることもあります(なお、日本では無戸籍の子どもであっても、様々な支援が行われています)。2016年、ユニセフはタンザニア政府と、スマートフォンを使った出生登録を試験的に開始。対象の2州において10.3%だった登録率が95%以上にまで伸びました。^{※10}



スマートフォンなどを活用した出生登録は他の国でも試されています。(写真はウガンダ)



© UNICEF/UNI145732/Esiebo

4 4. 質の高い教育をみんなに

難民の少女、自ら親たちを説得

2013年、紛争中のシリアから家族とともにヨルダンに逃れたマズーン・メレハンさん。「教育こそが人生の鍵だと分かっていたので、国を出る時に持っていた唯一の荷物は、教科書でした」

難民キャンプで暮らし、シリア難民の子どもたちが児童婚や児童労働を強いられるのを見て、キャンプ内のテントを訪ね歩き、子どもを学校に通い続けさせるよう親たちを説得しました。2017年、19歳でユニセフ親善大使に任命され、紛争下の特に女子の教育の重要性を訴え続けています。



© UNICEF/UN060339/Sokhin

16 16. 平和と正義を促進する

平和と安全・安心な社会の実現

日本は、世界各地で、①社会資本の復興、②経済活動の復興、③政府の統治機能の回復、④治安強化を柱に平和構築を支援しています。例えば、40年近く紛争が続いたフィリピン南部のミンダナオ島では、和平交渉プロセスに貢献し、和平台意後は、新たな自治政府の体制づくり、人々の生活の向上、中長期の地域開発を支援しています。

※1 Child Labour: Global estimates 2020, trends and the road forward, ILO ※2,3 Is an End to Child Marriage within Reach? Latest trends and future prospects. 2023 update, UNICEF

※4,6 A Familiar Face: Violence in the lives of children and adolescents, 2017, UNICEF (それぞれ94国と149カ国のデータ。どちらも日本は含まれていません。)

※5 令和6年における少年非行及び子供の性被害の状況、警視庁 ※7 Prospects for Children: Building Resilient Systems for Children's Futures, 2025 GLOBAL OUTLOOK, UNICEF

※8 9 Facts about Children on the Move: 2024 update, UNICEF, 2024 ※9 The Right Start in Life: Global levels and trends in birth registration 2024 update, UNICEF ※10 unicef news vol.254 (summer 2017) P.10

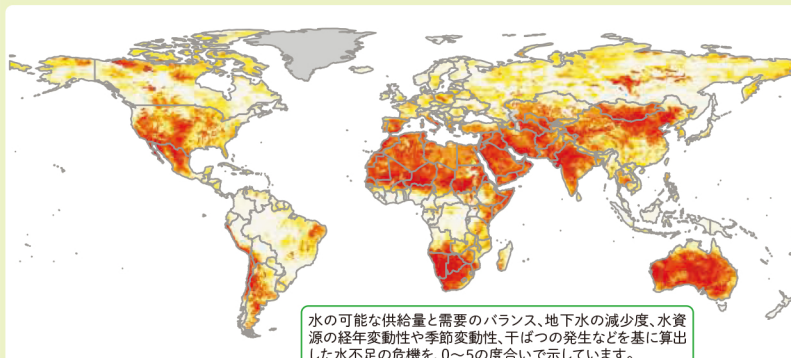
03 地球環境を守ろう！

目標



今地球上で起こっている気候変動や環境問題。どのような課題と結び付いているでしょう？

地球上で広がる水不足の危機



水の可能な供給量と需要のバランス、地下水の減少度、水資源の経年変動性や季節変動性、干ばつの発生などを基に算出した水不足の危機を、0～5の度合いで示しています。

水不足の危機の度合い
 非常に高い(3.23～5.00) 中程度(1.59～2.35) 非常に低い(0.00～0.93)
 高い(2.36～3.22) 低い(0.93～1.58) データなし

出典: The climate-changed child: A children's climate risk index supplement, UNICEF, November 2023

気候変動による利用可能な水資源量の変化に加え、生活用水や製造業・水力発電などへの水需要の増加が、**深刻な水不足**を引き起こしています。水資源の取り合いが**紛争**に結びつく危険もあります。

大気中の**温室効果ガス**が増え続けています。温暖化による海面上昇が島嶼国や沿岸部に大きな影響を与えています。また、感染症を媒介する生物の生息域が広がり、例えば、**マラリア、デング熱、ジカ熱**など、蚊が媒介する病気の感染地域が広がることも懸念されています。

特に途上国の都市部で深刻な**大気汚染**が発生しています。

原子力発電には温室効果ガスを排出しない利点がある一方で、**放射性廃棄物の処分**という課題があります。

プランテーションや土地の開発のために、**熱帯雨林や森林が伐採**され、動植物が**絶滅**したり、生物多様性が失われたりしています。

日本のBOSAI(防災)を世界で役立てる 災害に備え、復興する力を

自然災害の被害を減らすための備えと、被害から少しでも早く復興する力が世界で注目されています。災害が多く、長年防災に取り組んでいる日本には、様々な技術や仕組み、経験があります。これらを世界の自然災害被害の減少に役立てるため、防災に関する国際協力が活発に行われています。これまで3回の国連防災世界会議が日本国内で開催されているほか、市民参加型の会議も数多く開催され、世界の防災力強化に貢献してきました。たとえば東日本大震災を経験した東北では、「世界防災フォーラム」が2017年から続けられています。災害リスクを減らすための様々な提案が広く共有され、防災対策を推進する場になっています。2023年のフォーラムでは、岩手県立大槌高等学校や岩手県立釜石高等学校の生徒が、地域の復興を記録する活動や震災伝承の取り組みについて発表しました。



© 一般社団法人 walavie / 公益社団法人 CivicForce

このマークはどんな意味？

買い物の時など、こんなマークのついた商品を見たことがありますか？ それぞれどのような商品であることを示しているか調べてみましょう。



パーム油をめぐる話

アブラヤシから採れるパーム油。菓子など様々な加工食品や洗剤に使われています。原材料に「植物油脂」と表示され気づきにくいのですが、私たちはこの便利な油を日々摂取しています。同時にパーム油の生産のために広大な熱帯雨林が伐採されていることはあまり知られていません。アブラヤシの栽培に適した赤道下のマレーシアやインドネシアの熱帯雨林には、ゾウやオランウータンをはじめ多種多様な動植物が生きています。熱帯雨林は、パーム油生産のため広大なアブラヤシのプランテーションに変わり、動植物は生きる場を奪われ、多様性は失われています。問題の解決に向けて、パーム油の生産者に加え、油を売り、買う企業やNGOなどが一緒になって、持続可能な形でパーム油を使えるようにするための取り組みが2000年代に入って活発になっています。私たちはどのようなものを食べ、使っているのか、調べてみましょう。



© SARAYA Taketani

「海洋」の恵みは 何とつながっている？

地表の7割を占める海。津波や台風など大きな災害をもたらすこともあります。日々の食事に欠かせない海産物を供給するだけでなく、豊かな生態系や海水温が気候の安定に大きな役割を果たしていることも分かっています。

近年、大量のごみや汚染物質の海への流出、資源の乱獲、海洋酸性化、サンゴ礁やマングローブ林の減少、海水温の上昇など、海洋は危機的な問題に直面しています。人類共通の財産である海洋の豊かさを守り利用することは、SDGsの17個の目標のどれとつながっているか考えてみましょう。

政府・企業の連携で環境に やさしい持続可能な社会を作る

2015年には、二酸化炭素など温室効果ガスを削減するための国際的な枠組み（パリ協定）ができました。日本も参加し、政府は、環境にやさしい暮らしを後押しし、太陽光など再生可能エネルギーの利用を進める仕組みを作り、また、企業を中心に省エネ技術や環境保護技術の開発も進んでいます。

製品の生産や流通の過程で生まれる廃棄物や二酸化炭素、使用するエネルギーや資源の量を減らし、環境への負荷を少なくするために積極的に取り組み、SDGs達成への貢献を掲げる企業も増えています。関心のある企業のホームページを見て、どのような取り組みがあるか、調べてみましょう。

名前

のミッション!

「持続可能な世界にしていけるために、これから何をするのかを考えよう。」

ミッションの達成をめざして **STAGE 1** ~ **STAGE 4** のステージに取り組もう。

STAGE 1 SDGsの目標は以下の17項目。これまでに学習したことを思い出しながら、優先的に取り組んでいきたいと思う目標を、1〜3まで順位をつけてみよう。また、その理由も書いてみよう。

	目 標	順位	理 由
1	あらゆる場所のあらゆる形態の 貧困 を終わらせよう		
2	飢餓 を終わらせ、全ての人が一年を通して 栄養 のある十分な食料を確保できるようにし、持続可能な農業を促進しよう		
3	あらゆる年齢の全ての人の 健康的 な生活を確保し、 福祉 を促進しよう		
4	全ての人が受けられる公正で質の高い 教育 の完全普及を達成し、生涯にわたって学習できる機会を増やそう		
5	男女平等 を達成し、全ての女性及び女兒の能力の可能性を伸ばそう		
6	全ての人が安全な 水とトイレ を利用できるように衛生環境を改善し、ずっと管理していけるようにしよう		
7	全ての人が、安くて安定した持続可能な近代的 エネルギー を利用できるようにしよう		
8	誰も取り残さないで持続可能な 経済成長 を促進し、全ての人が生産的で働きがいのある 人間らしい仕事 に就くことができるようにしよう		
9	災害に強いインフラ を作り、持続可能な形で産業を発展させ イノベーション を推進していこう		
10	国内及び国家間の 不平等 を見直そう		
11	安全で災害に強く、持続可能な 都市及び居住環境 を実現しよう		
12	持続可能な方法で 生産 し、 消費 する取り組みを進めていこう		
13	気候変動 及びその影響を軽減するための緊急対策を講じよう		
14	持続可能な開発のために 海洋資源 を保全し、持続可能な形で利用しよう		
15	陸上の生態系 や森林の保護・回復と持続可能な利用を推進し、砂漠化と土地の劣化に対処し、生物多様性の損失を阻止しよう		
16	持続可能な開発のための 平和 で誰も置き去りにしない社会を促進し、全ての人が 法や制度 で守られる社会を構築しよう		
17	目標の達成のために必要な手段を強化し、持続可能な開発にむけて 世界のみんな で協力しよう		

※ここに掲載されている17個の目標は、外務省の仮訳を参考に、教材のためにわかりやすく意訳したものです。

STAGE 2 班やクラスの仲間とそれぞれが選んだ目標や、その目標を選んだ理由を話し合ってみよう。

これからの社会を、持続可能でよりよいものとするためにはどうしたらよいだろう。
話し合った内容をもとに、これから解決策を考えたいと思った目標や課題を書き出してみよう。

取り組んでいきたい目標や課題

取り組んでいきたい目標や課題についてレポートを作成してみよう!

設定した課題や目標について、さらに詳しく調べて、自分の考えをレポートにまとめてみよう。
レポートの最後には、課題の解決や目標の達成に向けた「行動宣言」を書いてみよう。課題を考えるときは「自分で解決できること／他の人や社会全体と協力して解決できること」「地域の課題／世界の課題」、解決策を考えるときは「今できること／将来取り組みたいこと」など、様々な視点から考えてみよう。まとめた後に、発表や、意見交換をすることでさらに考えを深めていこう。



「人のためになるようなテクノロジーの仕事に就きたい!」

エリフ・ビルギンさん(16歳 トルコ)

2年間かけて、本来なら廃棄されるだけのバナナの皮から環境にやさしいバイオ・プラスチックを開発しました。



「規格外の野菜で作った国産飼料で、純国産の豚肉を生産!」

北海道美幌高等学校 生産環境科学科

町の特産品の野菜(じゃがいも、カボチャ、にんじん)の中で、規格外として廃棄される野菜で豚の飼料を開発。国産飼料で育てられたブランド豚の生産、商品開発に取り組みました。また、豚のふんを堆肥にし、特産品の栽培に活用。循環型養豚経営を構築しました。



「目が不自由な人がかけている眼鏡をもっと役立つものにしたい!」

アナンさん(中学生 インド)

目の不自由な人が周囲の状況が分かるよう、超音波を使って周囲を感知できる機能の付いた眼鏡を発明しました。廃棄された携帯電話の部品などを使って作られたこの眼鏡、大学の先生とも協力して更に改良が進められています。



「子どもたちにとってよりよい世界をつくりたい!」

イングリッドさん(14歳 ブラジル)

ブラジルに来る難民の子どもたちにおもちゃや本を寄付する活動を通して、難民の子どもたちの生きる権利や遊ぶ権利を守ろうとしています。イングリッドさんはSNSを使ってこうした活動を伝え、社会を変えたい仲間とつながっています。



「島の美しい自然を守るためにレジ袋をやめよう!」

ムラティ(10歳)・イザベル(12歳)姉妹(インドネシア)

2018年までにバリでのレジ袋使用を廃止するよう市長に約束してもらうために、請願書の作成、ビーチの清掃活動などを実施、彼女たちの願いが受け入れられました。



世界を変えようと一歩を踏み出した仲間たちがたくさんいるよ。どんなことをしているのか見てみよう!

行動宣言: 2030年に向かって、私たちがしていきたいこと。

行動宣言

この行動宣言はSDGsの
どの目標につながっているだろう。
アイコンに○をつけてみよう。



自分の行動宣言を
送ってみよう!
みんなの行動宣言
も見られるよ。



<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/>

発展

それぞれの行動宣言を発表しあおう!そして、さらに深く話し合ってみよう!

※地図上の国境線は図示目的であり、その法的地位についてユニセフやユニセフ協会の立場を示すものではありません。
本副教材は2017~2018年にかけて開催された以下の会議・部会を経て制作されました。会議および部会の協力者は以下の通りです。
役職は会議・部会開催当時のものです。

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための協力者会議」

大谷 美紀子 弁護士 国連子どもの権利委員会委員
久木田 純 関西学院大学SGU招聘客員教授(元UNICEFカザフスタン事務所代表)
内藤 徹 国際協力機構(JICA)広報室地球ひろば推進課長

「持続可能な開発目標(SDGs)に関する副教材作成のための作業部会」(座長 竹原 眞)

金城 和秀 (都中社研 公民専門委員) 中野 英水 (都中社研 地理専門委員) 藤田 琢治 (都中社研 公民専門委員)

事務局: 公益財団法人 日本ユニセフ協会 〒108-8607 東京都港区高輪4-6-12 ユニセフハウス ☎ 03-5789-2014 ⑤

甲木 浩太郎 外務省国際協力局地球規模課題総括課長
田中 治彦 上智大学総合人間科学部教育学科教授
樋口 雅夫 文部科学省初等中等教育局課程課教科調査官

※敬称略。五十音順。

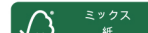


りそなグループ

本副教材は、りそなグループからの支援により印刷・配布されております



ミックス紙



FSC® C022337

初版発行: 2018年9月 第7版発行: 2025年4月
© 日本ユニセフ協会